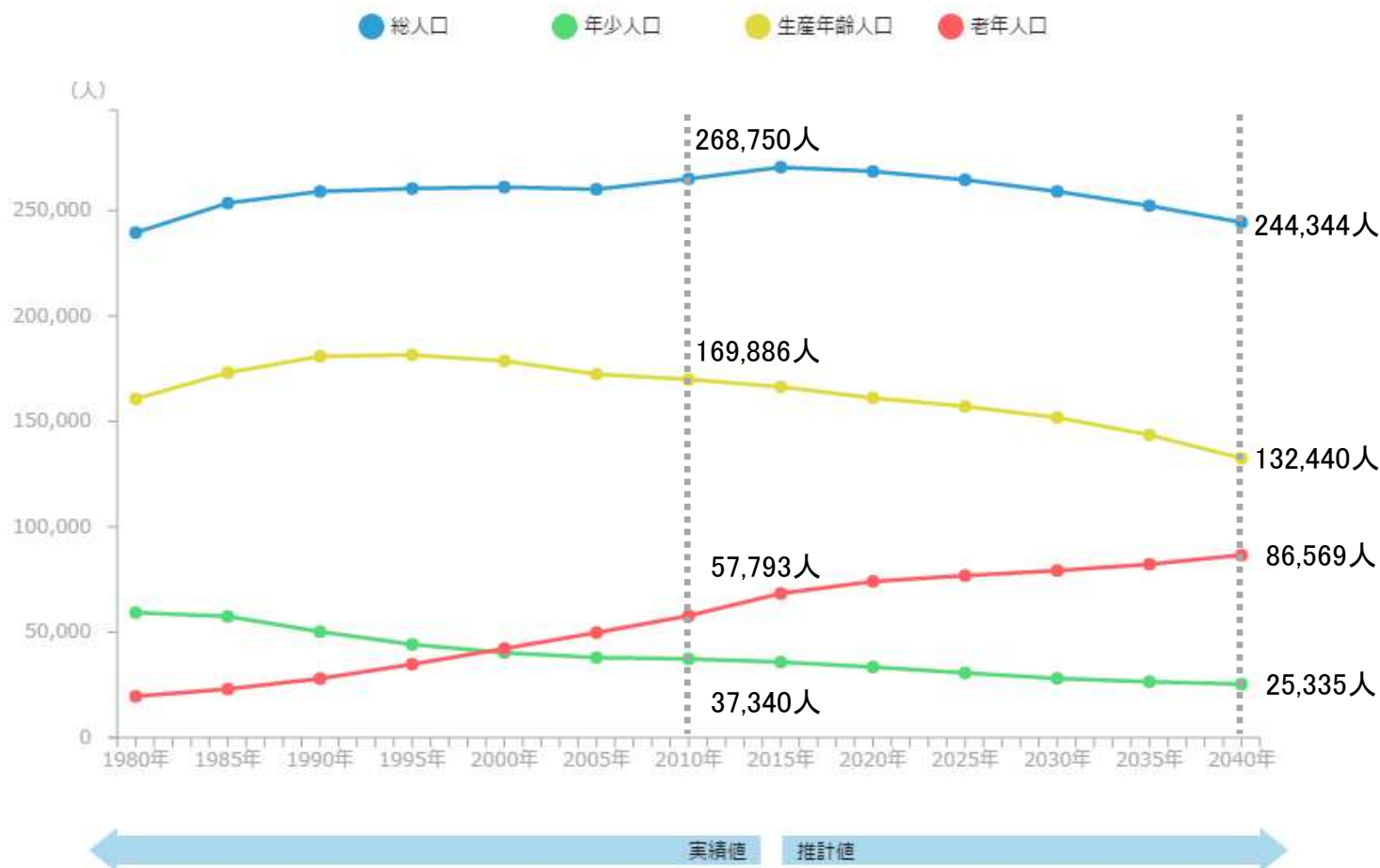


水戸市の人口動向

※出典
地域経済分析システム(まち・ひと・しごと創生本部(内閣府)提供)
国立社会保障・人口問題研究所

人口推移と推計(図1)

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、水戸市総人口の2010年から2040年にかけての減少率は、9.1%となっている。
- 全国平均(約16%減)と比較すると、減少率は小さい状況となっている。



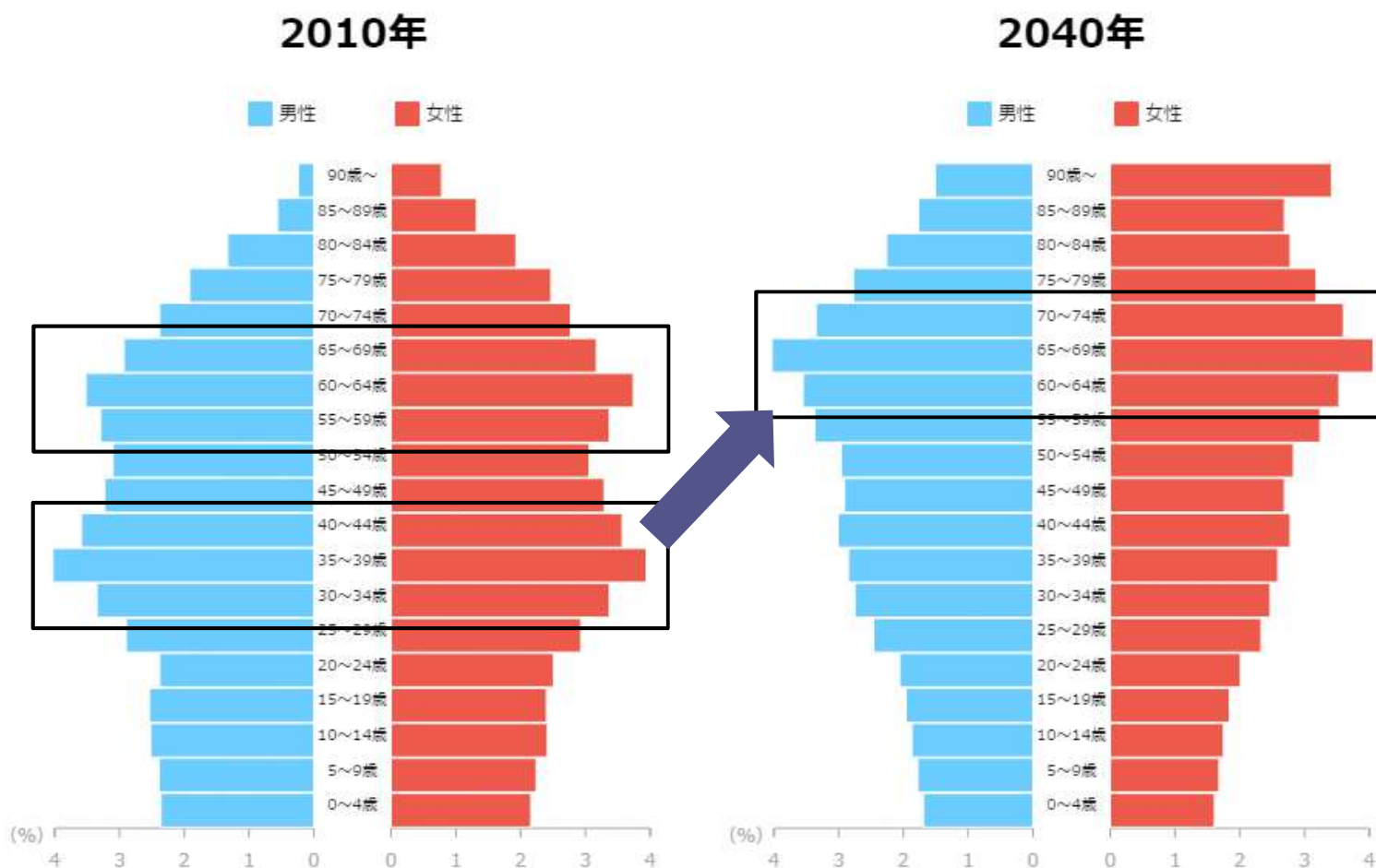
年齢3区分別の人口推計(図2)

- 人口推移を年齢3区分別にみると、年少人口(0-14歳)では約30%、生産年齢人口(15-64歳)では、約20%の減少率となっている。
- しかしながら、老年人口(65歳以上)については、約50%の増加率となっている。

区分	2010年	2040年	増減率
総人口	268,750人	244,344人	▲9.1%
年少人口 (0-14歳)	37,340人	25,335人	▲32.2%
生産年齢人口 (15-64歳)	169,886人	132,440人	▲22.0%
老年人口 (65歳以上)	57,793人	86,569人	49.8%

人口ピラミッド(2010年と2040年の比較)(図3)

- 2010年は、地域活動・企業活動の中心となる30歳から44歳の割合が最も高いが、団塊の世代を含む55歳から69歳の割合も高くなっている。
- 2040年は、60歳から74歳の割合が最も高くなる。



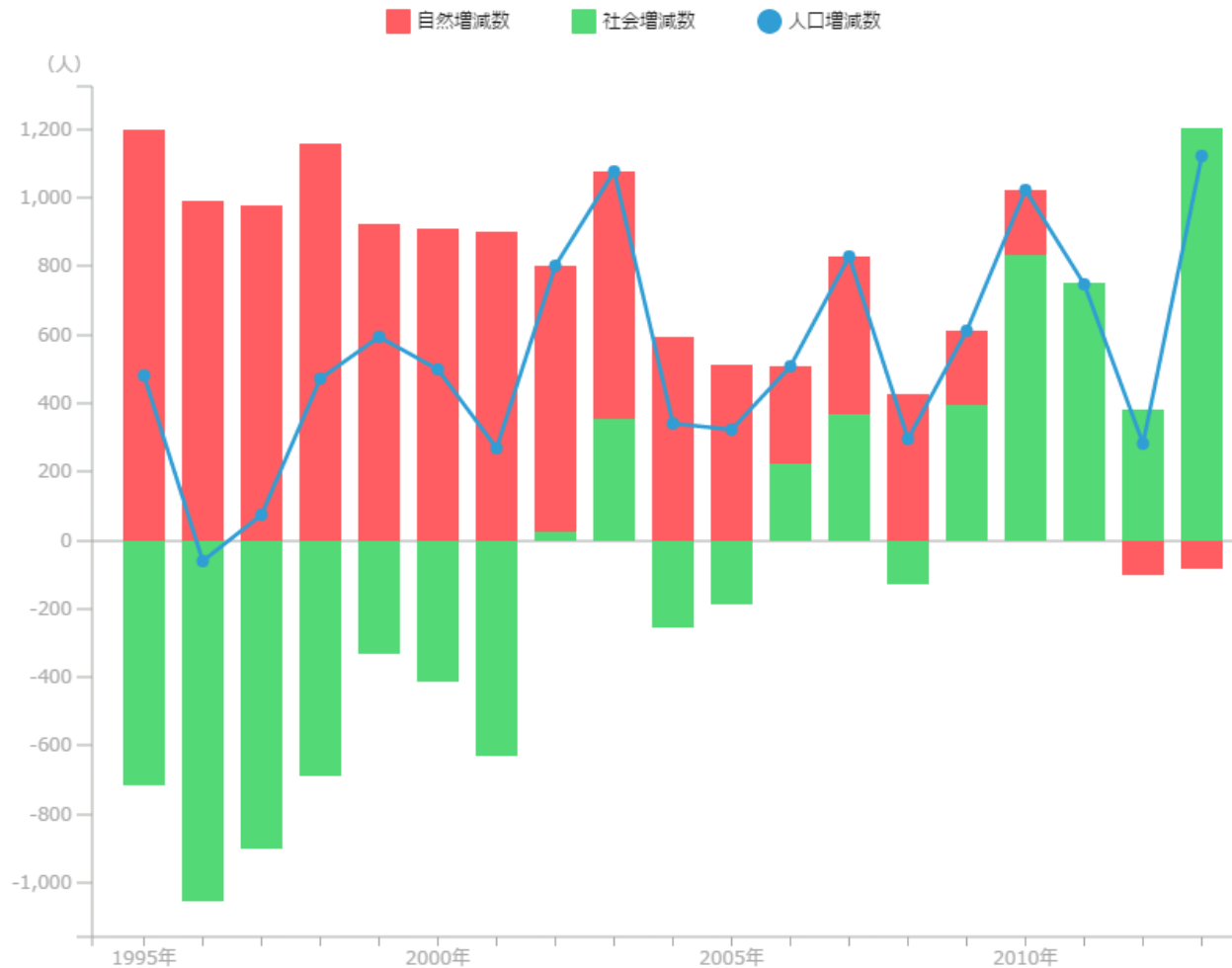
年齢3区分別の人口増減寄与率(図4)

- 年齢3区分別の人口増減率でみると、生産年齢人口に係る増減率は、2000年に減少に転じており、それ以降、人口減少に大きく寄与している。



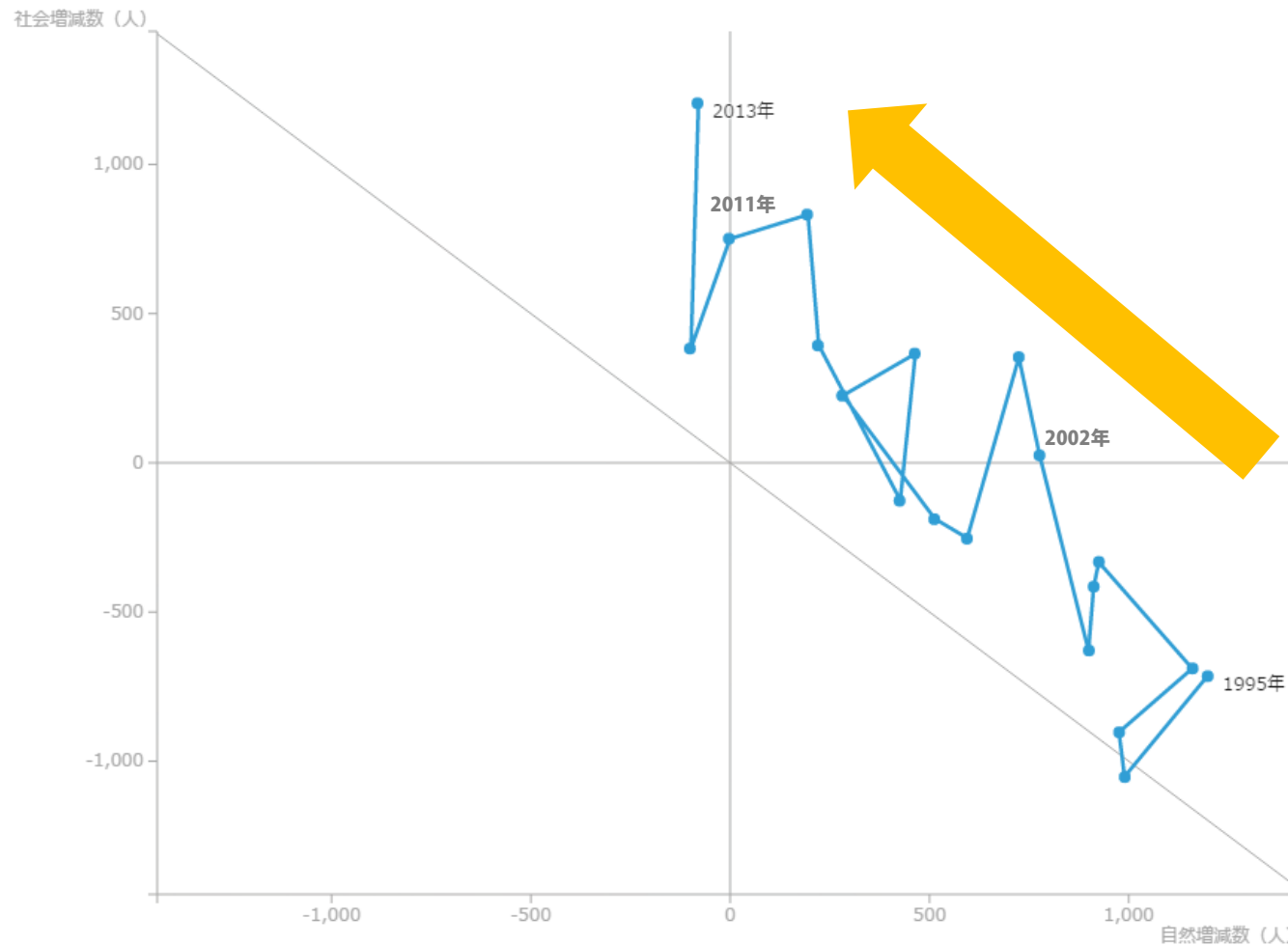
自然増減と社会増減の推移(時系列)(図5)

- これまで、社会減を上回る自然増により、人口が増加してきたが、2009年以降、自然増を社会増が上回る状況となっている。



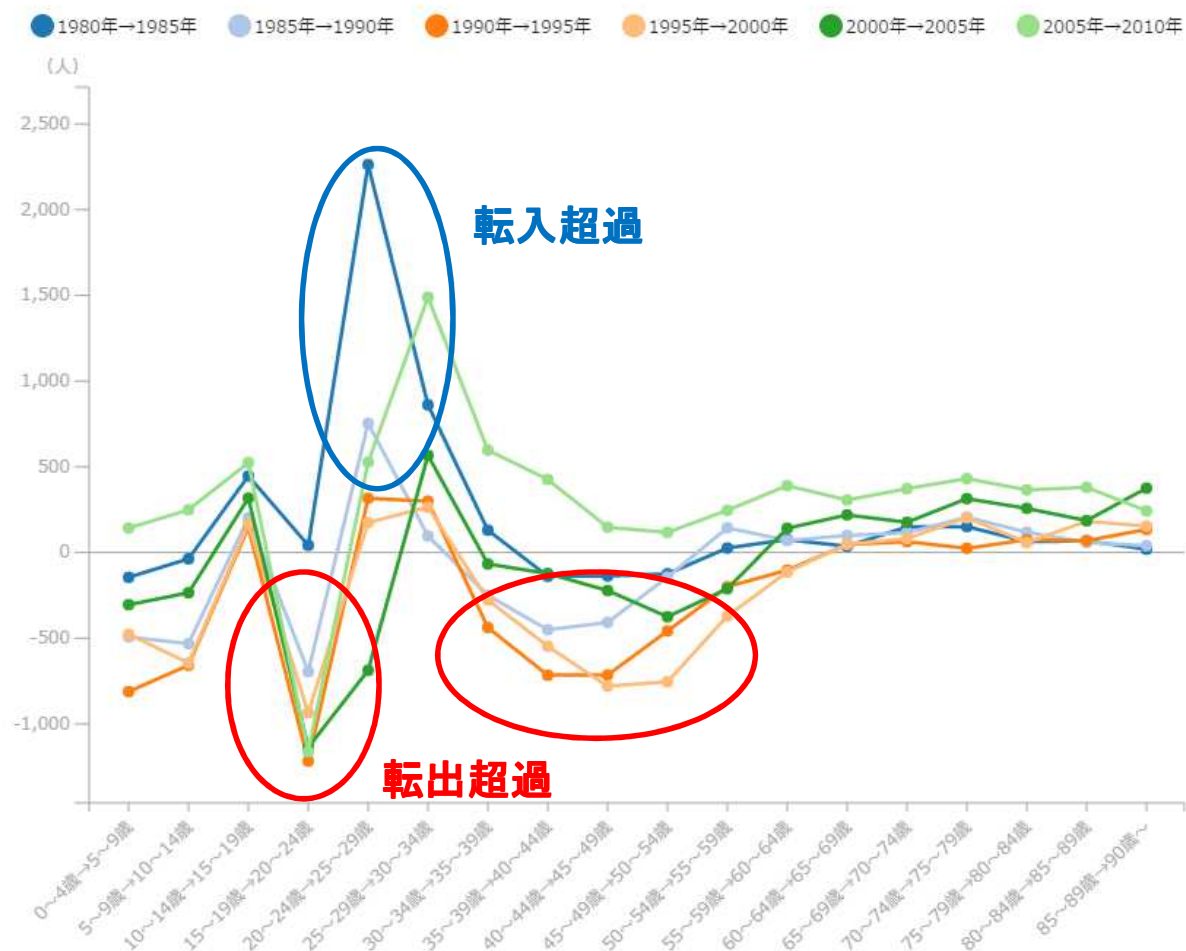
自然増減と社会増減の推移(散布図)(図6)

- 自然増減は、年々減少を続け、2011年に減少に転じている。
- 社会増減は、2002年に増加に転じ、その後減少するものの、順調な伸びがみられる。



年齢階級別純移動数(転入数－転出数)(図7)

- 10歳代後半の転出, 20歳代の転入が多い状況となっている。
- また, 30歳～50歳代での転出超過の状況が続いていたが, 近年は転入超過へと変化している。



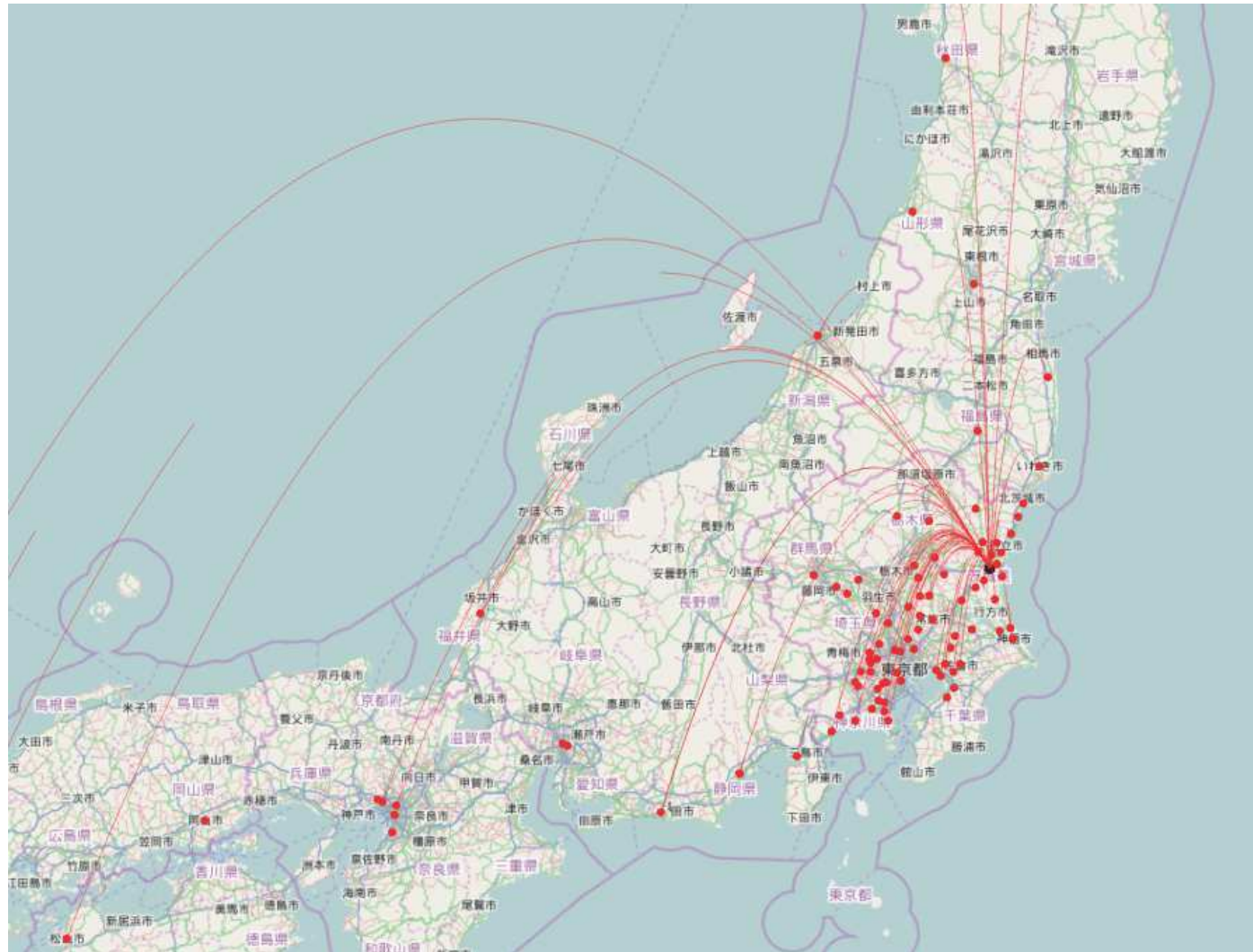
年齢階級別純移動数(男女別)(図8)

- 年齢階級別の移動を男女別にみると、10歳代後半から40歳代前半にかけて、転入数、転出数ともに男性の方が多くなっている。



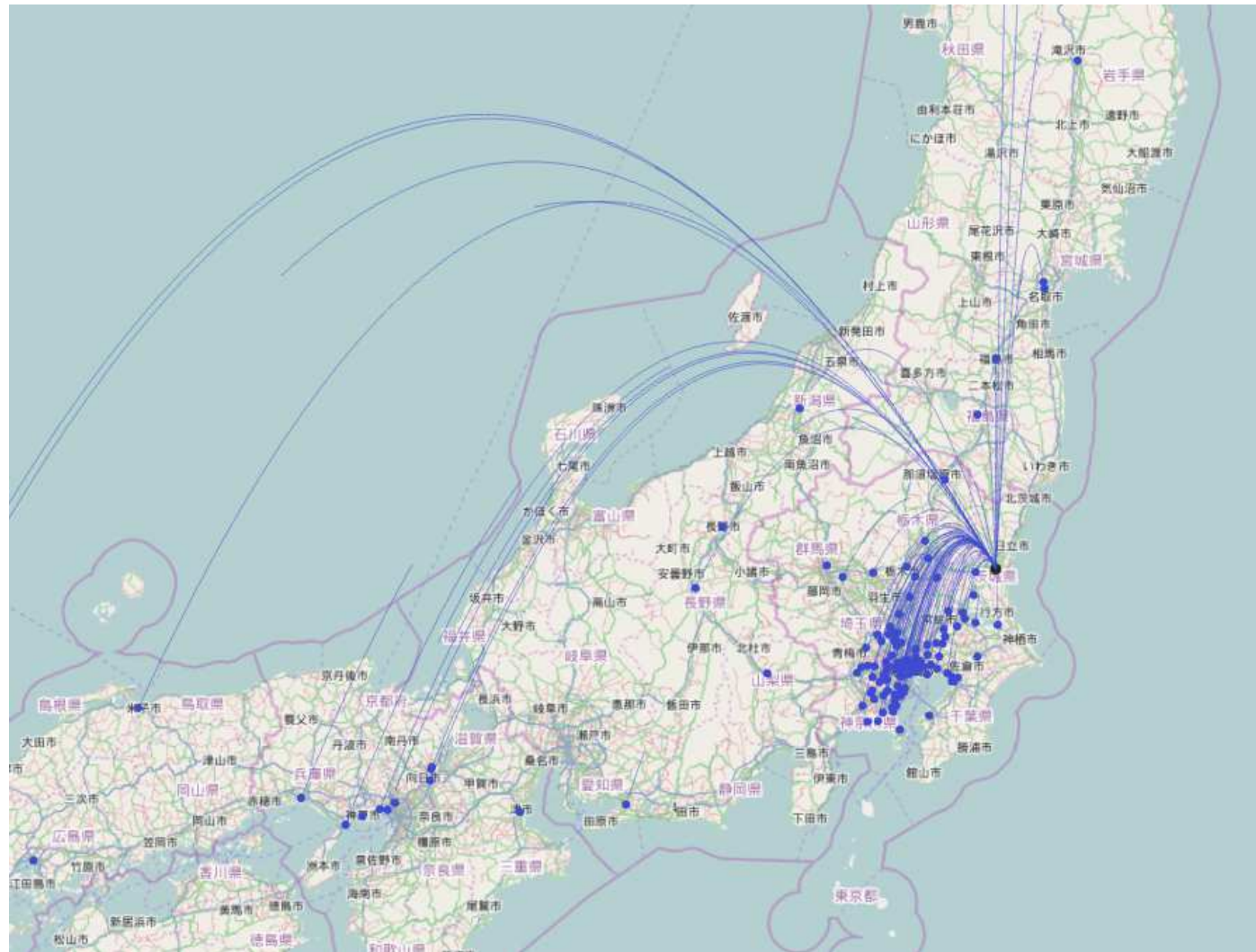
転入・転出の概要(転入超過の地域 2014年)(図9)

- 転入の状況については、県内または関東地方から転入が多くなっている。



転入・転出の概要(転出超過の地域 2014年)(図10)

- 転出の状況については、東京都や千葉県、神奈川県への転出が多くなっている。

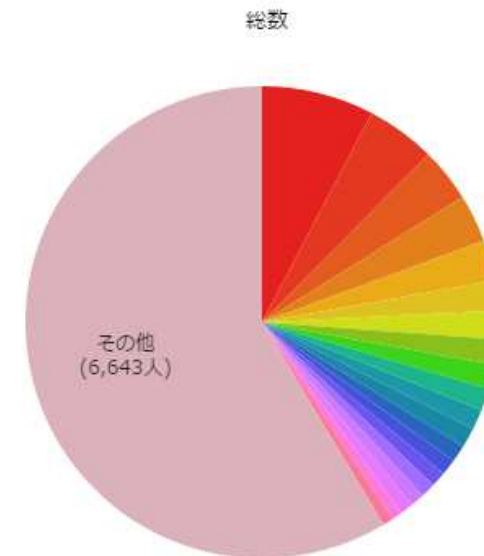


転入の内訳(2014年)(図11)

- 転入の内訳については、転入数の上位10位は、県内の市町村からであり、特に、県央、県北地域からが多くなっている。



転入数内訳

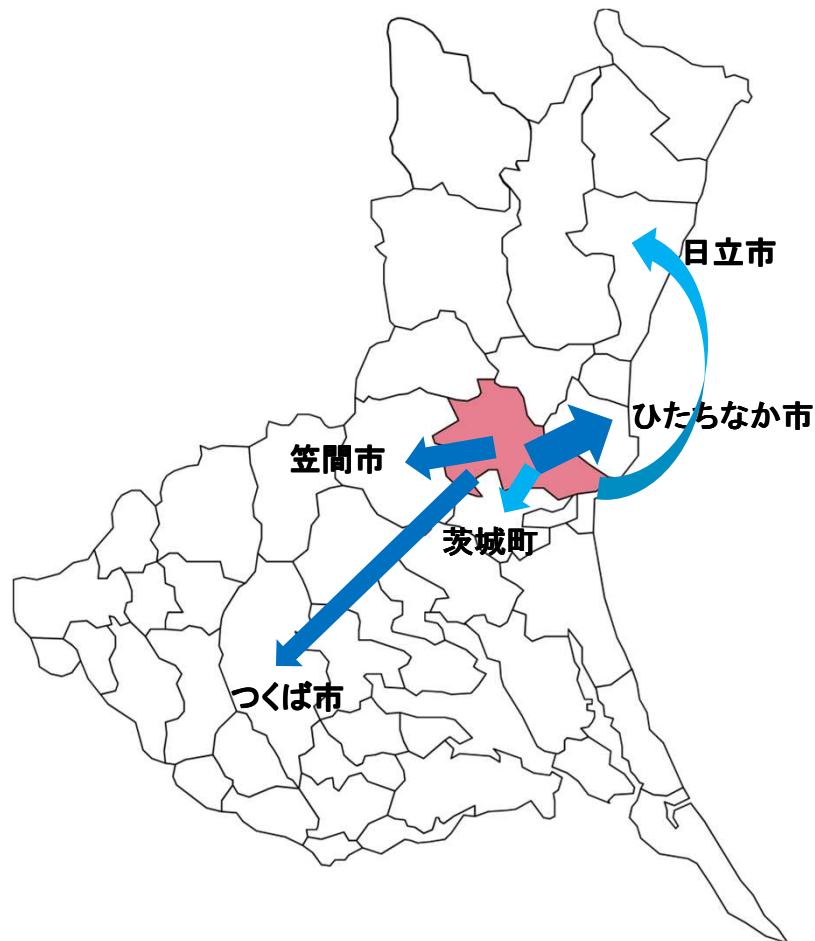


- 1位 茨城県ひたちなか市 871人 (7.7%)
- 2位 茨城県日立市 537人 (4.7%)
- 3位 茨城県笠間市 418人 (3.7%)
- 4位 茨城県茨城町 371人 (3.3%)
- 5位 茨城県那珂市 315人 (2.8%)
- 6位 茨城県つくば市 233人 (2.1%)
- 7位 茨城県土浦市 220人 (1.9%)
- 8位 茨城県常陸大宮市 198人 (1.7%)
- 9位 茨城県常陸太田市 189人 (1.7%)
- 10位 茨城県小美玉市 171人 (1.5%)

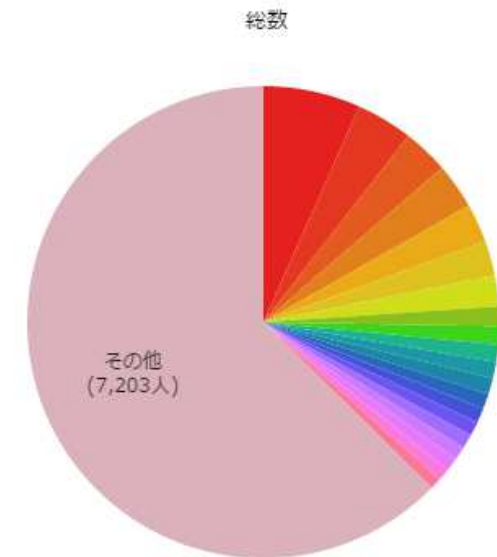
県央地域
県南地域

転出の内訳(2014年)(図12)

- ・ 転出については、県央、県北地域への転出が多く、県南地域への転出も多くなっている。



転出数内訳



- 1位 茨城県ひたちなか市 766人 (6.7%)
- 2位 茨城県笠間市 443人 (3.9%)
- 3位 茨城県つくば市 361人 (3.1%)
- 4位 茨城県茨城町 359人 (3.1%)
- 5位 茨城県日立市 306人 (2.7%)
- 6位 茨城県那珂市 275人 (2.4%)
- 7位 茨城県土浦市 242人 (2.1%)
- 8位 茨城県城里町 152人 (1.3%)
- 9位 栃木県宇都宮市 146人 (1.3%)
- 10位 茨城県常陸太田市 136人 (1.2%)

県央地域

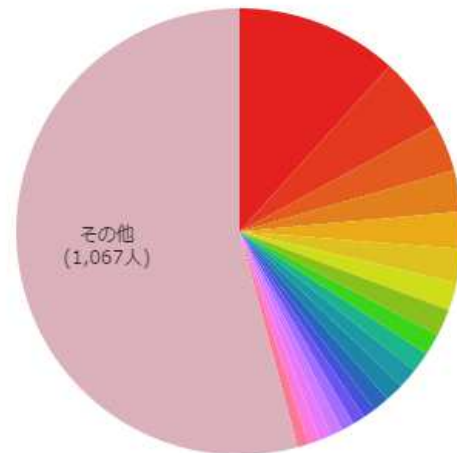
県南地域

転入超過・転出超過の内訳(2014年)(図13)

- 茨城県内, 特に県央地域からの転入超過となっているが, 転出については, つくば市への超過が顕著となっている。
- また, 東京都や千葉県など, 県外への転出が多い状況となっている。

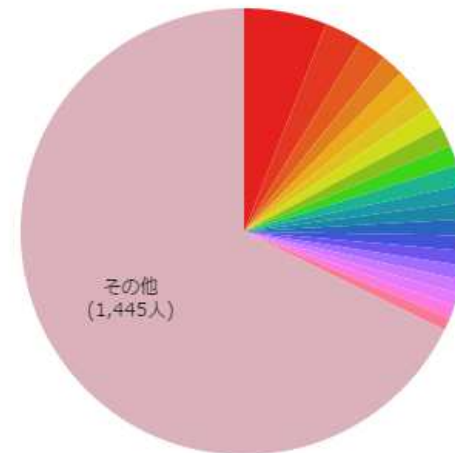
転入超過数内訳

総数



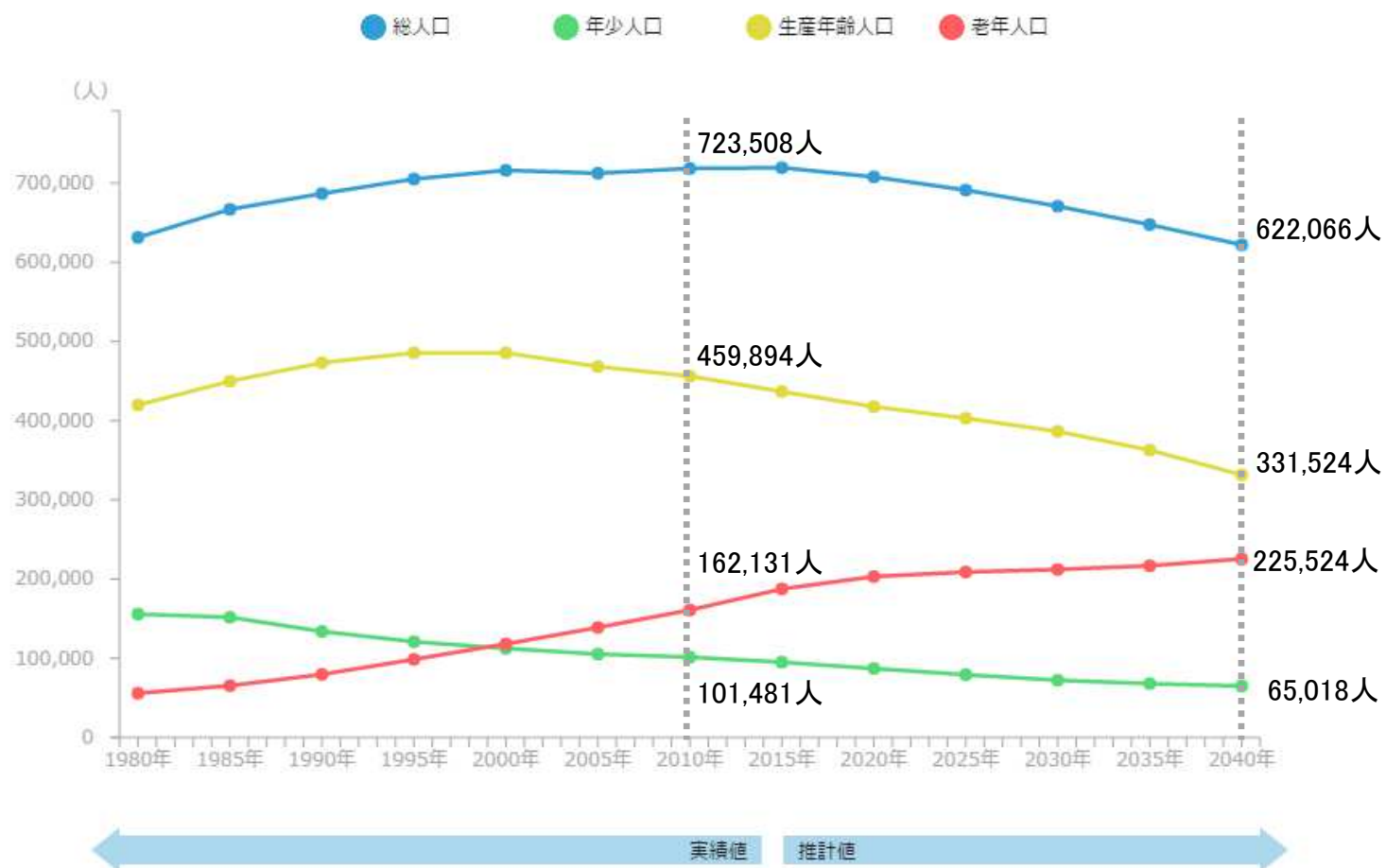
転出超過数内訳

総数



(参考) 県央地域の人口推移と推計(図14)

- 県央地域全体の総人口については、2010年から2040年にかけて、14.0%の減少が見込まれる。



(参考) 県央地域の年齢3区分別の人口推計(図15)

- 年少人口(0-14歳)では約36%, 生産年齢人口(15-64歳)では, 約28%の減少率となっている。
- しかしながら, 老年人口(65歳以上)については, 約40%の増加率となっている。

区分	2010年	2040年	増減率
総人口	723,508人	622,066人	▲14.0%
年少人口 (0-14歳)	101,481人	65,018人	▲35.9%
生産年齢人口 (15-64歳)	459,894人	331,524人	▲27.9%
老年人口 (65歳以上)	162,131人	225,524人	39.1%